

# 「我が家の防災ノート」について

四国地方整備局 大洲河川国道事務所 調査第一課 水防企画係長 井上博文

## 1、はじめに

自然災害はいつどこで起こるか、わかりません。被災を最小限に食い止めるために最も大事なことは、住民ひとりひとりが災害に対する正しい知識と災害にあった場合に、どのような行動をとるべきかを普段から身につけておくことです。

「我が家の防災ノート」とは、地域住民が防災意識をもち、避難経路や避難先、経路上の危険箇所、避難のタイミングなどをひとりひとりが考えて作成し、常日頃から見えるところに常備し、いざというときに活用するものです。

それは、市町村から提供しているハザードマップをただの与えられた情報として眺めるだけの物にするのではなく、表記されている情報を正しく理解し、その情報をもとにさらに一步踏み込んだものにする避難計画書の各家庭版と言えます。

この考え方だけを地域住民に伝えるだけではなく実行してもらわなければ真の意味での地域防災（減災）力の増大にはつながりません。

そこで、行政が地域に出向き、一緒に考え指導をすることで、防災ノートの作成方法をマスターして頂き、最終的には各家庭に浸透し、浸水予想区域全体をカバーすることによって、水害からの人的被害を防ぐことができるのです。

## 2、「我が家の防災ノート」の詳細

### 2. 1、記載情報

防災ノートに記載されるべき事項は、被災時に必要な情報が簡潔にわかりやすく記載されていなければなりません。被災時は平時に簡単にできる事も、動揺により冷静な行動が取れないことが多いからです。

表-1に「防災ノート」に記載されるべき記載情報の例を示しました。

記載情報
● 自宅、避難場所の表示
● 避難経路の表示
● 避難時等に危険な箇所の表示
● 避難するタイミングの表示
● 洪水情報を知るためのアドレス
● 家族の連絡先
● 緊急時の連絡先
● 避難時持ち出し品リスト

表-1 記載情報例

### 2. 2、各記載情報のソース

記載情報に列挙した事柄を地図上へ記載するにあたって重要な事は、情報が正確であることです。せっかく記載した情報が間違っていたり、想定している事柄にうそがあっては、被災時の混乱がますますひどくなります。そういう意味で情報ソースの正確なものを利用することが重要となるのです。

今回使用した各項目の情報ソースを表-2に示します。

記載情報	情報ソース詳細
● 自宅、避難場所の表示	大洲市配布の洪水ハザードマップ【あなたの避難場所】
● 避難経路の表示	自宅から避難場所までの拡大地図（住宅地図でも可）
● 避難時等に危険な箇所の表示	実際に歩いて調査した結果
● 避難するタイミングの表示	大洲市の当該地区の避難指示等の発令基準
● 洪水情報を知るためのアドレス	洪水ハザードマップに記載されているアドレス等
● 家族の連絡先	携帯番号、勤務先番号、学校の電話番号などの再チェック
● 緊急時の連絡先	市役所、消防、警察、インフラ事業者など電話帳でチェック
● 避難時持ち出し品リスト	自分で考えてみたり、インターネット等から既成様式を入手

表-2 情報ソース詳細

### 3、地域住民と協働しての「我が家の防災ノート」づくり

#### 3. 1、自主防災組織役員を中心とした「我が家の防災ノート」づくり

最初にこの試みを知ってもらう意味や実際に体験してもらって改良すべき点の洗い出しの意味も含め、モデル地域を抽出し、地域の防災リーダーでもある自主防災組織の役員を中心とした「我が家の防災ノート」を作成してもらうプランを立案しました。

##### 3. 1. 1、参加機関

この試みに参加したのは、八多喜（はたき）自主防災組織大洲河川国道事務所、大洲市、大洲消防、です。また、愛媛大学防災情報研究センターの高橋治郎教授にご指導いただきました。

##### 3. 1. 2、実施内容

平成 19 年 3 月 10 日（土曜日）に約 40 名で防災ノート作成に取り組みました。

実施に先立ち、「我が家の防災対策」と題して愛媛大学防災情報研究センターの高橋治郎教授に講演をして頂きました。その後、我が家の防災ノートの説明や現地調査を実施し、実際に集会所を我が家と想定し、避難場所の八多喜公民館までの防災ノート作りを体験していただきました。

体験後に意見交換を実施し、さらに作成しやすい我が家の防災ノートの参考にさせていただきました。

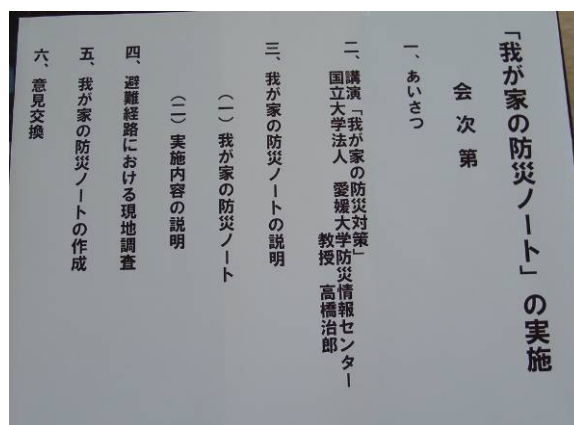


写真-1 防災ノート作り会次第

### 3. 1. 3、実施状況

実施状況は写真-2から写真-7のとおりです。



写真-2 防災ノート説明



写真-3 ルート調査、危険箇所の確認



写真-6 防災ノート作成作業



写真-5 作成指導

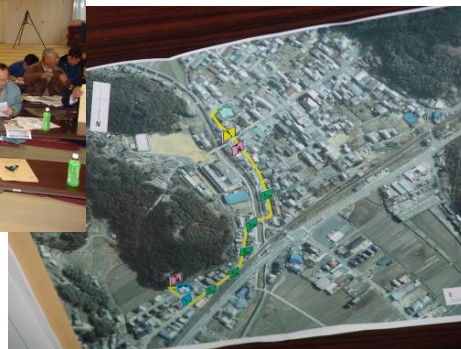
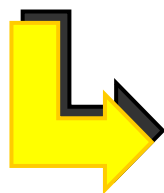


写真-4 資料の提示



避難場所 八多喜公民館  
26-0180

問い合わせ 大洲市役所  
24-2111

避難のタイミングは？	とるべき行動
大洲第2水位 4.0m	避難準備情報
大洲第2水位 4.8m	避難準備開始
大洲第2水位 4.8m	避難勧告
大洲第2水位 6.3m	避難開始
	避難指示

避難準備情報が出たら！

- ・戸締まりの確認
- ・隣のおばあちゃんの確認
- ・避難物資の確認
- ・家族の確認

緊急連絡先

- ・父：090-0000-0000
- ・妻：090-0000-0000
- ・友人：090-0000-0000
- ・近所のおじいちゃん：0893-24-0000
- ・隣のおばさん：0893-24-0000

アドレス 川の防災情報「e-インターネットで確認」  
<http://www.river.go.jp/>

アドレス 携帯電話で見える「川の防災情報」  
<http://l.river.go.jp/>

0 50 100m

写真-7 作成例（完成）

#### 4、今回の取り組みの意義について

今回の取り組みは、国土交通省が主体となり、大洲市と地域防災の指導的立場である大洲消防の協力を頂き行われ、地区の自主防災組織の会長をはじめとする支部長の参加が得られ大変有意義な取り組みであったと考えます。

防災の話題になるとよく「自助・共助・公助」というキーワードを耳にしますが、現実問題として、被災前や被災時に行政ができることは、公平性と迅速性の意味からも、情報の伝達にとどまります。これは、非常に大事なことです、情報の受け手が情報の意味が解らず、行動を起こすべき非常に重要な情報を入手しても行動しないのであれば全く意味を持たなくなります。

被災時には、ご近所、地区が助け合う事が実際の被災を免れる大きな要因です。また、「自分の命は自分で守る」という気持ちが大切です。

結局、「自助」と「共助」の部分が災害から身を守る大部分を占めることとなりますが、これに「公助」の部分が加われば被災者の数は激減すると思われれます。

今回の取り組みは、行政が情報を一方的に流すだけでは無く、地域の自主防災組織と協働して防災に関する資料（今回の場合は「我が家の防災ノート」）を作成するといった行政サービスのものです。完成した防災ノートも大事ですが、それまでの取り組みである行政と自主防災組織との調整、内容の支部長などへの説明、実際に情報の意味についての質問や回答・・・etc。

この過程こそが一人一人の防災意識を高め、言葉だけではない「自助」「共助」「公助」の理解につながるのではないかと考えます。

この取り組みは、今後、大洲市が中心となって、今回モデルケースとして実施した八多喜地区以外に広げていく予定であります、この取り組みを市民一人一人が理解できるよう努力を惜しまないことを願っています。また、国土交通省大洲河川国道事務所としてできることは、惜しみなく協力したいと考えています。

大洲は現在でも、肱川の治水安全度が低く、他県や県内の他地域に比べ水害による被災頻度が高い地域です。よって、住民の水害に対する防災意識も高く、自主防災組織率も100%を達成しています。また、地元行政である大洲市も非常に危機管理に関し前向きな地域であります。

今回の取り組みをこの防災意識の高い大洲で各世帯に定着させ、他の模範となることを願っています。